

初期臨床研修プログラム： 皮膚科

コース責任者： 竹上與志昌 指導医： 竹上與志昌

コースの位置づけ：必修科として、0ヶ月、選択科として1ヶ月から-

I 一般目標(GIO : General Instructional Objective)

プライマリケアに必要な皮膚の生理的・病的状態の観察の方法を学び、視診・触診の重要性を体験し、全身疾患の一部としての皮膚症状の診察の基本、ならびに皮膚科プライマリケアを修得させる。皮膚疾患を観察する際に、常に全身的疾患との関係を考える視点を築く。その中には組織検査のための皮膚生検技術、小皮膚外科手技の修得も含まれ、また皮膚病理学の基本を修得する。

II 行動目標(SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 皮膚病変の基本的病態（腫瘍性疾患、アレルギー疾患や感染性疾患などの炎症性疾患、先天的・遺伝的異常など）の鑑別に有用な正しい問診ができる。
- 2) 基本的な皮膚所見（発疹学的所見）を記載することができる。
- 3) 病変皮膚の問題点を的確に判断し、疑診ならびに鑑別診断を列挙することができる。
- 4) 全身所見の問題点を挙げ、皮膚病変との関連性を考察することができる。
- 5) 皮膚病変の重症度を判断し、適切な初期治療を行うことができる。
- 6) チーム医療の一員として、関係他科へのコンサルテーションを的確に行える。
- 7) 患者・および家族の皮膚疾患に特有な不安や希望に傾聴し、良好なコミュニケーションをとることができる。

III 学習方略(LS : Learning Strategy)

必須事項：代表的な皮膚疾患（湿疹、蕁麻疹、薬疹及び皮膚感染症等）の診断と鑑別方法を学ぶ。皮膚縫合法（表皮縫合、真皮縫合）と皮膚生検術を学ぶ。各種外用剤・内服薬、創傷被覆剤の使用方法を学ぶ。

外来診療：外来診察見学と合わせて問診、皮膚所見の記載、診断にあたる。実際の皮膚科に特有な診断法（発疹学的診断、真菌検査、パッチテスト・プリックテストなどの皮膚アレルギー検査など）、治療法（外用療法や内服療法、皮膚腫瘍凍結療法など）を指導医とともに行う。

病棟診療：皮膚科入院患者の診断へのステップと経過観察のために必要な臨床所見、検査所見を理解し、治療・検査計画を立案する。

業務：手術（月、水の午後）では、助手・あるいは術者として参加し、皮膚切開縫合術、腫瘍切除術、皮膚生検術などの基本的皮膚外科手技を学ぶ。

IV 学習評価(Ev :Evaluation)

知識：診療録、EPOC など。

技能：診察手技、技術等、観察記録評価；指導医

態度：観察記録評価；指導医、他の医療スタッフ

*当科でのレポート作成が適している項目：発疹

皮膚科研修における週間予定

曜日	午前	午後
月	外来診療	手術、病棟診療
火	病棟診療	手術、病棟診療
水	外来診療	糸魚川総合病院 外来診療
木	外来診療	病棟診療
金	外来診療	糸魚川総合病院 外来診療